

コイルセンターの根津鋼材

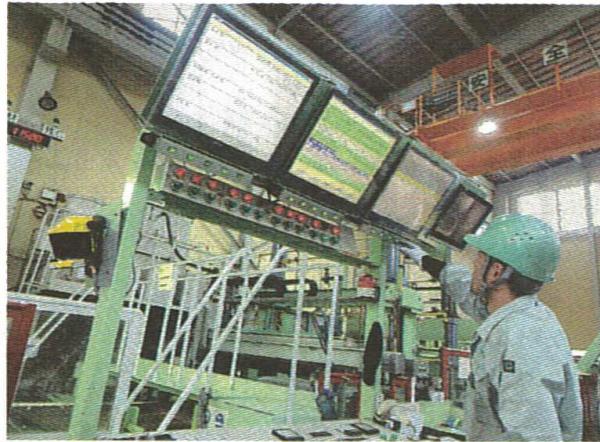
全工場がペーパーレス化

業務効率化、加工変更に迅速対応

有力コイルセンターの急な変更時の伝達・指示根津鋼材（本社・東京都荒川区東日暮里、社長・根津訓光氏）は、グループを含む全6拠点の生産現場でペーパーレス化が主体の直需向け自販型システムで、これらのことにより、運用を開始した。

同社は、電機OA分野事務所や工場で使用していった種々の紙データを、全て独自のコンピュータシステム上でファイル化し、その情報を現場に配る。

一般的に、事務所と工場との間では、加工指示書や工程表、母材入庫率化・時短はもちろん、



加工指示・変更の伝達はモニタ画面で表示



スリッター刃組みもモニタ画面(円内)で表示

今後、作業効率や時短、省力化の具体的成果を検証していくことになるが、システム化によってグループ全体で月間3万5千枚に及ぶ紙データがなくなるほか、トレーサビリティの確立や他拠点で生産管理を遠隔指示することも可能になる。

変更のたびに、事務所の生産管理スタッフは現場に足を運んで報告。指示するが、伝達部署が多いだけに、労務負担を減らすため、LAN経由でデータを開発によって事務所から現場に送信。変更の際も、今回のペーパーレス化で、これらの問題をクリアした。独自のシステムを開発によって事務所から開始した。5月には「異常報告」を通知するシステムも完成する予定で、それによって現場の完全ペーパーレス化が実現する。

3月から、子会社の村田鋼業（千葉県浦安市）で、これらをモニタ画面で周知し、時間差なくすべての当該部署で情報を共有できる。

る。

対応を要するにもかかわらず周知にタイムラグがない。

その情報をリアルタイムにモニタ画面で周知し、